



▲三木市高齢者大学では、まなびの郷みずほを拠点として、多くの方が学びを深めています。

問 三木市高齢者大学(まなびの郷みずほ内)
細川町瑞穂247-12
☎88-25550



▲ホームページはこちら

三木市高齢者大学
(愛称:みつきいシニアカレッジ)
4年制の大学、2年制の大学院がある三木市高齢者大学では、毎月2回程度の講座日があり、午前は専門家などの講師を招いて学生全員で学ぶ「教養講座」を、午後には各々が希望する分野を学ぶ「専門講座」を実施しています。
※大学は園芸、健康福祉、情報(パソコン)、古典・郷土史から選択し、大学院は自分たちで研究テーマを決めて学びます。



特集-人生100年時代
どう生きる?

豊かな人生を引き寄せる学び

問 (市)生涯学習課 社会教育係

人生100年時代では、寿命が長くなるだけでなく、社会変化のスピードがどんどん速くなっています。

そのため、若いころに身に着けた知識だけで人生を無理なくいきいきと過ごすには、心もとなない時代になってきたとも言えます。

これからの時代は、学びについても多くの選択肢が広がり、働きながらも、高齢者になってからも、学ぶチャンスが増えてきます。

例えば、知識を広げるために学校に入ってみる、スキルを高めるために資格の勉強をする、趣味を深めるために独学で学ぶなどです。

環境の変化が目まぐるしい中だからこそ、年齢に関係なく変化を受容して飛び込んでいく姿勢が、人生を豊かにする原動力になるかもしれません。

ここでは、三木市の高齢者が集い学びを深めている三木市高齢者大学(愛称:みつきいシニアカレッジ)について紹介します。

学生 の立場から

お互いを照らし合える関係を を広げたい

65歳のころは、まだ仕事をしていたのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で仕事がリモートワーク中心となり、人との関わりが少なくなると、気持ちが沈んでいた時期がありました。

その様子を見ていた近所の高齢者大学の卒業生がわざわざ入学案内を私の家に届けてくださいました。最初は有り余った時間をどうせ消

化するなら暇つぶしにこの思いで入学願書を提出しました。ところが、入学してみると、そこには活発で積極的な物事に取り組む多くの学生の姿があり、入学まで持っていた私の考えはそこで吹き飛んでしまいました。

教養講座では経営者や医師、教授、記者などのお話を聞き、日々変化する社会の動きなどが学べます。

学長 の立場から

定年退職は第二の人生の スタートライン

三木市高齢者大学では、仕事や子育てなどがひと段落し、第二の人生をスタートしようとする方に向けて、講座を通じた学びの場を提供しています。また、クラブ活動などでの生きがいづくり、介護予防・認知症予防などの取組を通じた健康づくりを推進しています。

学生には、地域においてもりー

ダイナミックな役割を担っている方が多いのですが、大半の方が最初から積極性があつた訳ではありません。

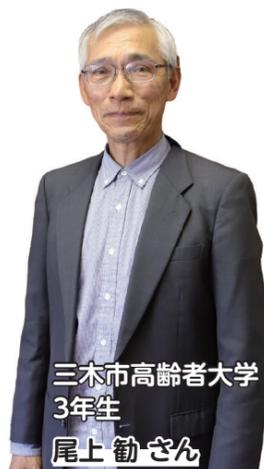
高齢者大学で直接顔を合わせながらさまざまな活動に取り組む中でお互いが刺激し合い、さらに元気で活発になっていく印象があります。

私たちも学生の皆さんの姿に刺



三木市高齢者大学
学長 井上京子さん

激をもらっており、皆さんにとってさらに学びになる講座づくりに励んでいます。
これからお互いが成長し続けられるような場を提供できるよう、引き続き学校運営に取り組んでいきたいと思えます。



三木市高齢者大学
3年生
尾上 勤さん

この生活がたいへん充実したものであるため、令和2年度から始まった再入学制度を使って、現在2回目の大学生活を送っています。
さまざまな活動を通して仲間が増える中で、あのとき暗闇の中にいた私の足元を照らしてくださった先輩方のように、互いに光を照らし合えるような関係を今後も広げていきたいです。

年代別の学習の理由

過去1年間に学習したことがあると回答した方の学習の理由は、
・40～50代が学ぶ理由は「仕事において必要性を感じたため」が最も多い。
・年代が上がるにつれ、健康や他人とのつながり、地域や社会のためが増加傾向に。



【出典】内閣府 生涯学習に関する世論調査(令和4年)をもとに作成